

萬鉄五郎 同「男の顔」「風景」外小品  
神津港人 同小品 } 『国民新聞』に社外よ  
り助勢の作とある。

小松喜代子 水彩「春」「傘を持てる少女」「海辺の町」「静け  
き日」

川路柳虹 油画「老爺」「休憩」「緑衣の女」

広川松五郎 同「海の男」「自画像」「おんな」

山口三郎 同「海荒るる日」「砂丘の村」

前田公篤 同

伊藤順三 日本画大作「浅草観音堂」「帰りゆく唄ひ女」外に水

彩画三点

郷倉千鞆 日本画「神様」

広島晃甫 同「雑草園」

塚越東七 彫刻「顔」

幸崎伊次郎 同「W氏像」

井上(直伍カ) 同「姉の顔」

伊藤喬 同「左団次」

高村豊周 西洋名家原型による鑄造「ヴェートローヴェンの顔」鑄

造「円筒花瓶」「睡蓮灰皿」

原三郎 蒔絵菓子盆「ねむの花」

小倉淳 更紗卓袱

堀(義二カ) 雁の水指

柳俊夫 釣燈籠

高村豊周によると黒耀社第二回展は成功裡に終わったが、お祭り気

分的のものになったことを反省して解散し、工芸方面のメンバーのみで柱人社を作ったという。

### ⑧ 設置記念日における河口慧海の講演

大正四年十月四日の本校設置記念日には河口慧海の「西蔵の美術に就て」と題する講演があった。講演筆記は『東京美術学校校友会月報』第十四卷第九号に掲載されている。慧海の本校における講演は明治三十六年に次いで今回が二度目である。

### ⑨ 海野勝珉の卒去

四月より療養中だった本校教授海野勝珉は大正四年十月八日午前一時頃、本所区番場町三八の自邸にて卒去した。この十月四日には、本人は出席できなかったが、勝珉の美校二十五年動統祝賀会が開催されたばかりであった。十月九日付の各新聞には写真入りで勝珉の逝去が大きく報道されている。葬儀は、十日午後二時染井泰宗寺齋場にて執行され、同染井墓地に葬られた。『東京美術学校校友会月報』第十四卷第六号に以下の訃音が掲載されている。

海野教授の卒去 (晁江記)

明治二十三年二月以来本校金工科に教鞭を執りて熱心後進を薫陶せられ、社會にありては、金工界の鉅匠として、人咸な其作の傑出せるを慕ひたる、本校教授帝室技藝員海野勝珉先生は、本年十一月八日病のために俄に卒去せられたり。我校のため美術界のため、洵に痛惜に堪へざるなり。先生の病に罹りたるは本年四月